府立山田高等学校
校長　吉村　烈

平成 25 年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

個々の生徒が、本校での全ての教育活動に対し、挑戦するとともに充足感を得る教育をめざす。
１．生徒に学ぶことの意義を理解させ、一人ひとりの希望進路を実現できる学校
２．本校での生活を通して、常識と良識を備えた人格の形成を図るとともに、生徒が社会と関わり、貢献できる力を育む学校
３．中学生から「行きたい学校」、保護者から「行かせたい学校」として選択され、入学後に満足感を与え、卒業時に来て良かったと思える学校
（本校は　EIE　‘Evidence-informed Education’をめざします）

２　中期的目標

1　「確かな学力」の育成と進路目標の達成
（１）新学習指導要領に即し、「興味関心をかきたてられる授業、わかる授業」をめざした授業充実に取り組む。
ア　授業充実プロジェクトチーム（授業ＰＴ）を核に、研究授業（互見授業を含む）、公開授業、授業アンケートを効果的に活用した授業充実に組織的に取り組み、学習内容の定着を図る１０分程度の学習活動、ＩＣＴを活用した授業充実についても研究を進める。
※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を毎年５％引き上げ、平成２６年度には８０％にする。
イ　学習内容定着のための１０分程度の学習活動（山高ＢＴ）の平成 26 年度からの全校実施をめざす。モジュール授業、教育産業等と提携した語彙検定なども検討し、中期目標完成年に実施内容を確定する。
（２）国公立から難関私立大学等の大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。
ア　進路指導部を中心に、現在の学年ごとのキャリア教育の計画から、３年間を見通した計画への改善に取り組む。平成２７年度に計画を完成する。
イ　各教科で、カリキュラム・学習内容を精査し、進路希望達成率をより改善するための研究を行う。
※　センター試験の現役受験者を平成２７年度に１５０人以上とし、国公立大学の合格者１０人以上、難関私立大学合格者１００人にする。
※　全国レベルで生徒の学力を診断できる実力考査を年に１度以上実施する。

2　夢と志を持つ生徒の育成（適切な自尊感情を持ち、基礎学力を身につけている本校生徒の良さを生かし、困難に立ち向かい、自らの人生や新しい社会を切り拓く力の育成に努める。）
（１）生徒の規範意識を醸成するとともに、個々の生徒への支援体制を強化する。
ア　生徒が自らの行動を律することのできる人材となるよう、基本的生活習慣の一層の確立と規範意識の醸成に努める。また、保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制をより一層充実する。
※　生徒向け学校教育自己診断の規範意識に関する項目における肯定率を毎年７%以上引き上げ平成２７年度には８０%とする。
※　生徒向け学校教育自己診断の心の健康に関する項目について、肯定率を毎年１０%引き上げ、平成２７年度には７０%とする。
イ　登下校時の自転車による交通事故防止を図る。
※　登下校指導を長期休業を除く月１回実施するとともに、自転車での重大事故を防ぐ。
（２）部活動や特別活動を通じて生徒の自尊感情を一層高めるとともに、他者の役に立っていると感じられ、困難を乗り越えることのできる力を育成する。
ア　部活動を充実させ、仲間とともに困難を乗り越える体験をさせる。
※　部活動加入率を平成２６年度には９０%以上とし、それを維持する。
イ　行事や生徒会活動、ＨＲ活動を通じて集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。
※　大学等研究機関とも連携しながら、自己有用感を高める方策を検討する（平成２４年度肯定率３７～４１％）
（３）これからの国際社会で通用する人材を育成するため、生徒の海外研修や国際交流の受入れを積極的に行う。
ア　国際交流委員会などを中心に、海外研修や国際交流の受け入れを行うとともに、LHR などと有機的に連携させ、多文化理解を推進する。

3　開かれた学校づくりの推進
（１）学校の教育活動の積極的な情報発信を行う。
ア　広報委員会を設置し、HP の更新、新たなメディアも視野に入れた保護者への情報発信の充実、学校主催学校説明会に加え、教育産業とも連携した学校情報の発信、中学校訪問などを行う。活動内容を精査し分掌への改組も視野に入れる。
※　平成２４年度学校説明会（校外・校内）のべ２７回を１０％増加させ年間３０回を維持する。
（２）地域・中学校・小学校とのさまざまな連携を強化する。
ア　小学生対象の科学入門講座、中学生対象の「楽しいスポーツ芸術講座」・山高杯・山高カップなどを維持発展させる。
イ　校種を超えた授業研修などを通じ、授業力向上とともに地域連携を図る企画を検討する。
ウ　地域の行事へ現状通り積極的に参加する。また地域の人材・施設の活用を計画する。

4　ICT を活用した校務の効率化
（１）　ICT を活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業、連絡会議等にかかる時間を軽減することで生徒と向き合う時間を確保する。
※　教職員の連絡会議等の時間を、平成２７年度に２割（平成２４年度比）を削減する。
（２）　校務事務システムを導入した一元管理をおこなうとともに、教職員間で情報共有を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［平成２５年 12 月実施分］	学校協議会からの意見
【学習指導など】・今年度は授業アンケート 2 回実施するとともに、授業充実 PT を中心に昨年度に引き続き授業力向上に取り組んだ。授業満足度は 3 年前 66%、昨年度 72%に対し、77.9%と着実に上がっている。教員の自己診断によると、授業についてまだ教科としての協議の不足を感じており、その改善を通じて今後一層の満足度の向上をめざす。学力生活実態調査によれば 1，2 年の 8 月時点で平日家庭学習をほとんどしないものがそれぞれ 43%、50%に達し、課題が改善されていない。反転学習の導入等も視野に入れ、家庭学習時間を増加させる必要がある。 【生徒指導など】遅刻指導は 1，2 年で厳しく行い、20%程度減少している。「学校規律の指導を守っている」の項目で、「よくあてはまる」が 43.6%。服装などについても一層の規範意識の向上が必要である。部活動、学校行事への積極的な取り組みは「よくあてはまる」と「まあまあ」を併せ 84.4%、87.7%。きわめて高い。現在の取り組みを継続していく。 相談等については、「気軽に相談できる先生がいる」に「よくあてはまる」とした生徒が 13%。まあまあを併せても 55%にとどまる。相談体制の充実と周知が必要である。 【学校運営など】保護者の意見で「学習の内容や進度を知ることができる」の肯定的意見が 56%、学校と家庭の意思疎通についての肯定的意見が 50%前後にとどまり、またＨＰの閲覧も少ない。ＨＰの改編も行い、保護者の意見も積極的に取り入れる「開かれた学校体制」を推進する必要がある。	第１回 ①　研究授業の取組みをぜひすすめていただきたい。「クラブと勉強、両方がんばる学校」として今後の発展を期待する。 ②　授業見学をして高校では学習内容が膨大であると感じた。日々の授業が「家庭学習」に結び付くよう、興味関心がかき立てられる授業をお願いしたい。 ③　生徒のモチベーションを高め、進路実現させるために粘り強い指導を期待する。 第２回 ①　授業は先生の声も大きく、丁寧でわかりやすい。生徒への誉め言葉もあり、意欲が掻き立てられる。資料の提示、板書という点ではもっと工夫できると感じる。書画カメラ、電子黒板の活用など推進してもらいたい。 ②　家庭学習が少ないことが課題。原因の分析と今後の取組みをすすめていただきたい。 第３回 ①　学校への満足度が高く感謝したい。 ②　家庭学習とクラブとの両立をバランスよくできるようにしてほしい。 ③　キャリア教育が必要ではないか。卒業生による職業講話なども活用をお願いしたい。 ④　地域とのふれあいで学べることも多い。活用していただきたい。

府立山田高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
「確かな学力」の育成と進路目標の達成	(1)「興味関心をかきたてられる授業、わかる授業」をめざした授業充実への取り組み ア　授業充実プロジェクトチームの編成と、研究授業、公開授業の推進 イ　学習内容定着のための１０分学習活動 ウ　授業アンケートの活用と分析 (2) 大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。	ア　・　授業充実プロジェクトチームを８名程度で編成する。 ・　授業充実 PT を中心に、研究授業(互見授業)、公開授業を推進する。資料等も作成する。 ・　全教員が必ず一度ずつは授業公開、授業見学を行い、授業者に対する意見を作成する。 イ　・学習内容定着のための１０分程度の学習活動を実施する。モジュール授業、教育産業等と提携した語彙検定なども検討する。 ウ　・授業アンケート(７月・１２月)の１回目を課題把握、２回目を成果検証と位置づけ、授業改善を推進する。 ア　・　進路指導部を中心に、現在の学年ごとのキャリア教育の計画から、3年間を見通した計画への改善に取り組む。平成２７年度に計画を完成する。 ・　全生徒が年 1 回以上全国レベルの学力テストを受験する。 イ　・　各教科で、カリキュラム・学習内容を精査し、進路希望達成率をより改善するための研究を行い、シラバス、教科目標の設定とＨＰ等での公表をする。	ア・全教員による１名以上の授業者に対する意見の作成と提出 ・年２回以上の公開授業の推進 イ・１０分学習活動(ベーシック・タイム)の実施。全校次年度以降のベーシック・タイム計画の作成。 ウ・生徒向け学校教育自己診断（以後『自己診断』）における授業満足度７５％（平成２４年度７０％)、授業アンケート２回目での、「知識技能が身についた」「興味関心が持てた」の肯定的評価 80%（平成 24 年度最終アンケートで各 75%, 77%) ア・進路指導基本方針の作成とＨＰでの公表。 ・　年 1 回以上の全国レベルでの学力テストの実施 イ・シラバス等の公表。	ア・「全教員による全教員の授業観察」を目標としたが、12 月末時点で１５人程度、25%にとどまっている。(△) ・公開授業については８回行い、研究協議も２度実施した（◎） イ・１０分学習活動については個別の実施は行ったが、学年・教科等のまとまりでは実施できなかった。平成２６年度からの実施に向けて計画を作成中(△) ウ・授業満足度 77.9%(全学年)、第 2 回アンケート結果で2項目の肯定的評価、各 78.9%、80.5%(○) ア・進路指導基本方針の作成とＨＰでの公表は行った(○) ・全国レベルでの学力テストは 1，2 年（平成 26 年 1 月 18 日)、3 年(平成 25 年 7 月 26 日)に実施(○) イ・シラバスは作成し、公表している（○）
夢と志を持つ生徒の育成	(1)　生徒の規範意識の醸成と個々の生徒への支援体制の強化 ア　規範意識の醸成 イ　教育相談体制の一層の充実 ウ　登下校時の自転車による交通事故防止 (2) 部活動や特別活動を通じて生徒の「自尊感情」を一層高める ア　部活動の充実 イ　行事・生徒会活動などの充実 (3) 国際社会で通用する人材の育成 ア　国際交流推進	ア・　服装などについて、規範意識を醸成する ・　遅刻しないことが当然の校風を醸成し、特に 3 年生での遅刻の減少を図る。 イ・　教育相談体制を充実させ、生徒自身が一層相談をしやすい状況を作る。 ウ　地域からの苦情の大半が自転車通学に関するものである。事故防止をめざし、保護者の協力も依頼しながら、登校指導を行う。 ア・　生徒指導部、生徒会と連携し、部活動の加入率を高める。 イ・　学校行事を一層充実させ、生徒自身が自主的に取り組むものとする。 ・　連携大学教育学部との特別活動に関する共同研究を継続する。 ・　新たに生徒の社会性についての共同研究を他大学と開始する。 ア・　今年度はオーストラリアへの語学研修を実施する。 ・多文化理解のＨＲを実施し、留学生との交流などを拡大する。	ア・『自己診断』の規範意識に関する項目における肯定率 67%（前年比+7%) ・　遅刻数前年度比−10% イ・同上の心の健康に関する項目肯定率 50% ウ・登校指導回数年間７回(4, 5, 6, 9, 10, 11, 1 月)を行う。 ・　自転車の重大事故０、地域教育協議会での登校指導への評価 ア・部加入率 87%（前年比+4%) イ・『自己診断』の「学校行事などに進んで協力する」以上の回答 45% ・連携大学との共同研究の継続、他大学との共同研究の開始。 ア・オーストラリアへの語学研修実施 ・多文化理解のＨＲ実施	ア・『自己診断』で服装、頭髪などを守っているとするものの割合 91.1%（◎) ・遅刻数 12 月末まで 2663 件前年同月比 78.1%(◎) イ・診断項目の見直しを行ったため比較できないが、12 月末まで 13 回のＳＣ相談会があり、35 組の相談があった(○)しかし、「相談できる先生がいる」とする生徒が 55%。取り組みを一層充実する必要がある。 ウ・登校指導回数 7 回。今年度から全教員での校外指導を開始した(2 度)(◎) ・自転車の重大事故幸いにも 0 件、地域教育協議会での報告も行った(○) ア・部加入率 86.9%(○) イ・「行事に積極に取り組んでいる」47.2%(○) ・関西学院大学・東京大学との共同研究を開始した(○) ア・オーストラリア語学研修 7 月 29 日(日)～8 月 9 日(金)参加者 15 名付添教員 2 名　姉妹校提携に向けて動いている。(◎) ・多文化理解ＨＲ（11 月 27 日(水)）吹田在住の外国人を 11 名講師として招き、実施した（○）
開かれた学校づくりの推進	(1) 学校の教育活動の積極的な情報発信 ア　広報委員会の設置 (2) 地域・中学校・小学校とのさまざまな連携を強化する。 ア　小・中学生対象の各種講座の充実 イ　他校種との連携 ウ　地域行事への参加と人材施設の活用 (3) 30 周年記念式典等を実施する	ア　・広報委員会を数名程度で設置する。 ・　学校説明会（校外・校内）を前年度より１０％増加させ年間３０回を維持する。 ・　中学校訪問を昨年と同様に実施する。 ア・　夏季の小学生向け科学入門講座を今年度も実施する。 ・　「楽しいスポーツ・芸術講座」を充実させる。 ・　山高杯、山高カップを実施する。 イ・　近隣の小中学校との連携を強める。 ウ・　地域行事への参加を例年通り実施する。 ・　週休日、放課後等の地域人材の活用を研究する	ア・　広報委員会の設置 ・　学校説明会(校外・校内)30 回実施(冊子等の作成) ・　合格者のいる全中学校の訪問を行う ア・　科学入門講座の参加者 10%増加 ・　「楽しいスポーツ・芸術講座」の参加者 400 名以上 イ・　近隣の小中学校と授業研修見学などを行う ウ・　山田東フェスティバルなどに例年通り参加する ・　地域自治会等と連携を強め、会合等に参加する ・　公民館と連携する行事を検討する。	ア・広報委員会を設置した（○） ・学校説明会は校外 23 回、校内 12 回の計 35 回実施した。(◎) ・合格者のいる中学校 68 校、訪問中学校 79 校（◎) ア・科学入門講座昨年度は 3 講座 37 名、今年度４講座４１名（○） ・「楽しいスポーツ・芸術講座」参加２６６名（×）一昨年度１９７名、昨年度３９９名なので、年度変動が大きい。 イ・授業見学を行った。しかし、教員同士による校種の違いを超えた交流はまだまだである（△） ウ・山田東フェスに例年通りＰＴＡ、ダンス部、吹奏楽部で参加をした（○） ・地域自治会の会合に年１２回参加。 ・公民館の展示会へ書道部参加。地域との連携を充実させる（○） ・平成２５年７月１４日、３０周年記念式典実施（○）

府立山田高等学校